

改訂青森県産魚類目録補訂(1)

誌名	青森県産業技術センター水産総合研究所研究報告
ISSN	21865434
著者名	山中,智之 伊藤,欣吾
発行元	青森県産業技術センター水産総合研究所
巻/号	8号
掲載ページ	p. 1-10
発行年月	2014年6月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



改訂青森県産魚類目録補訂—I

山中智之¹・伊藤欣吾^{1*}

Additional Records and Revisions to the Revised Catalog of the Fishes Collected from the Waters of Aomori Prefecture—I

Tomoyuki YAMANAKA¹ and Kingo ITO^{1*}

Abstract

Since the revised catalog of the fishes collected from the waters of Aomori Prefecture is published, nine years have passed. Due to the progress of the taxonomic study on the fishes in these nine years, several new records from Aomori Prefecture and expanded distributions were found. Therefore, the review of the list was required. As the result of this study, 14 species were additionally reported from Aomori Prefecture, and 6 species were newly found from the coast of Sea of Japan. Furthermore, the taxonomic problems on the fishes distributing on Aomori Prefecture were commented. As the result of this study, it was revealed that 215 family 712 species and subspecies occur in Aomori Prefecture.

キーワード：改訂青森県産魚類目録，補訂，青森県初記録

青森県は本州の最北に位置し，西岸は日本海に面し対馬暖流の影響下にあり，東岸は太平洋に面し寒流である親潮の影響を受ける。そのため，本県の魚類相は北方性と南方性の両要素を含み，生物地理学的研究の観点からも非常に興味深い海域である。

本県の魚類相に関しては本研究所の OB の塩垣優博士を中心としたグループにより精力的に研究がおこなわれ，その多様性は比較的良く解明されている（塩垣，1982；松浦ほか，1988；野村・塩垣，1992；塩垣ほか，1992 など）。そして，塩垣ほか（2004）でこれまでの青森県の魚類相に関する知見がまとめられ，「改訂青森県産魚類目録」が作成さ

れた。そこでは本県に 211 科 697 種が分布することが明らかにされている。

改訂青森県産魚類目録が出版された 2004 年以降も，魚類の分類学的研究は大きく進展し続けており，新種の報告や学名の変更が相次いでいる。また，青森県に産する魚類に関しても新しい知見の蓄積が進み，本県からの初記録となる種も複数報告されるなど，改訂青森県産魚類目録に対し補訂を要する部分が明らかになってきている。

本稿では，改訂青森県産魚類目録が出版された 2004 年以降に青森県から新たに記録された，もしくは前報では掲載から漏れていた 14 種の魚類のリ

1 地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所，〒039-3381 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

*Corresponding author: Kingo ITO, Fisheries Research Institute, Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center, 10 Tsukidomari, Moura, Hiranai-machi, Aomori 039-3381, Japan (Email: kingo_ito@aomori-itc.or.jp).

ストを提示した。また、これまで本県では太平洋岸からしか記録がなかったが近年新たに日本海沿岸からも採集された種が複数確認されたので併せてリストアップした。さらに、本県に産する魚類に関する近年の研究の結果明らかになった前報からの訂正を要するもの、分布を再度調査する必要があるものに対し、その現況を列記した。前報の塩垣ほか(2004)と本研究の結果、215科712種の魚類が青森県に分布することが確認された。なお、この採集地を示したリストは青森県産業技術センター水産総合研究所により管理されている。

属より上の分類体系および学名は、前報の塩垣ほか(2004)ではNakabo ed. (2002)に従っていたが、本稿では先日、東海大学出版会から刊行され前版から大幅な改訂がなされた日本産魚類検索全種の同定、第三版(中坊編, 2013)に従った。標準体長はSL, 全長はTLの略号を用いた。また、分布記録の証拠となる標本の一部は青森県産業技術センター水産総合研究所、北海道大学総合博物館(HUMZ)、国立科学博物館(NSMT)、高知大学理学部海洋生物学研究室(BSKU)に保管されている。

改訂青森県産魚類目録の補訂の作成に際し、本研究OBの塩垣 優博士には草稿をご高覧頂き、貴重なご意見を賜った。弘前大学農学生命科学部の佐原雄二博士には本県の外来種の分布に関して貴重な情報をご教示頂いた。北海道大学大学院水産科学研究院の今村 央博士には北海道大学総合博物館に所蔵されるチョウザメの標本の情報をご教示頂き、その標本の写真を北海道大学水産学部海洋生物学講座魚類体系学教室からご提供頂いた。また、試験船青鵬丸の佐藤隆文船長、ならびに船員の皆様には標本の採集に際し多大なるご協力を賜った。関係者の皆様に深く御礼を申し上げる。

青森県産魚類目録追補

青森県初記録種

ウナギ目 Anguilliformes

ホラアナゴ科 Synbranchidae

1. ユキホラアナゴ *Ilyophis nigeli*

HUMZ 178986 (343 mm TL), 青森県下北半島沖太平洋 (41°19.1'N, 141°47.4'E), 水深891 m, 1997.10.24; HUMZ 205224 (340 mm TL), HUMZ 206213 (321 mm TL), HUMZ 206214 (321 mm TL), 206215 (313 mm TL), 206218 (259 mm TL), 青森県下北半島沖太平洋 (41°43.6'N, 141°51.5'E), 水深980 m, 2009.6.28 (田城ほか, 2010).

コイ目 Cypriniformes

ドジョウ科 Cobitidae

2. カラドジョウ *Misgurnus dabryanus*

青森県外来種対策学術調査検討会(2006)による青森県外来種リストに導入され定着はしていない外来種のうち生物多様性への影響が懸念される「要注意導入外来種」として本種が掲載された。しかし、本種は国土交通省による河川水辺の国勢調査の中で1997年、2002年および2007年と複数年にわたり岩木川から採集されており(国土交通省, 2013)、定着している可能性が考えられる。清水・高木(2010)によって愛媛県久万高原町ではカラドジョウの侵入によりドジョウが駆逐された可能性があることが指摘されており、本県でも本種は在来のドジョウに対し悪影響を与える可能性がある。継続的なモニタリングを行い、これ以上分布が拡大しないよう注意を払う必要がある。

岩木川下流域, 38–128 mm SL, 8個体, 1997.6.7–1997.9.7; 岩木川下流域, 39–84 mm SL, 9個体, 2002.7.4–2002.9.4; 岩木川五所川原大橋付近, 42 mm SL, タモ網, 2007.7.3 (国土交通省, 2013).

ナマズ目 Siluriformes

ギギ科 Bagridae

3. ギギ *Tachysurus nudiceps*

青森県外来種対策学術調査検討会(2006)による青森県外来種リストには導入はされたが定着していない「導入外来種」として本種が掲載された。しかし、国土交通省による河川水辺の国勢調査では2002年と2007年に本種が岩木川水系から採集されていることから(国土交通省, 2013)、定着している可能性が高い。

岩木川長泥付近, 189 mm SL, 2個体, 2002.7.4; 岩木川

下流域, 13–43 mm SL, 10個体, サデ網・タモ網・定置網・地曳網, 2007.7.4–2007.9.11 (国土交通省, 2013).

サケ目 Salmoniformes

サケ科 Salmonidae

4. カワマス *Salvelinus fontinalis*

本種は竹内ほか(1985)により岩木川水系での分布が確認され, 青森県外来種対策学術調査検討会(2006)による青森県外来種リストにも「定着外来種」として掲載された. また, 2006年に岩木川水系の同所に生息することが再確認されている(佐原雄二氏私信).

5. ブラウントラウト *Salmo trutta*

青森県外来種対策学術調査検討会(2006)による青森県外来種リストに導入も定着もしていないが定着した場合には生物多様性への悪影響が予想される「警戒外来種」として本種が掲載された. しかし, 原子(2002)により津軽半島北部を流れる今別川および与茂内川から本種の幼魚からスマルト化した個体まで, さらに十和田湖や津軽海峡から352–520 mm TLの3歳魚が採集されたことが報告されており, 本研究では本種が定着している可能性があるかと判断し, 掲載した. 青森県下では放流によらずとも河川で繁殖した個体が降海して近隣河川に分布を拡大できる可能性もあり, 継続的なモニタリングと適切な防除手段を講じる必要がある. 本種はIUCN(国際自然保護連合)の「世界の侵略的外来種ワースト100」および日本生態学会の「日本の侵略的外来種ワースト100」に選定されている.

タラ目 Gadiformes

メルルーサ科 Merlucciidae

6. シロガネダラ *Merluccius productus*

BSKU 70615 (472 mm SL), 青森県八戸市沖, 水深約250 m, 底曳網, 2004.5.14 (遠藤・北川, 2006).

スズキ目 Perciformes

キチジ科 Sebastolobidae

7. アラスカキチジ *Sebastolobus alascanus*

HUMZ 180770–180772 (62.5–94.8 mm SL), 3個体,

青森県沖太平洋 (40°16'73"N, 142°14'56"E), 水深446–449 m, 底曳網, 1997.10.21 (鶴岡ほか, 2010).

ホウボウ科 Triglidae

8. ソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis*

NSMT-P 74116, 3個体, 深浦町沖, 採集日時不明 (Shinohara et al., 2011).

シキシマハナダイ科 Callanthiidae

9. シキシマハナダイ *Callanthias japonicus*

中泊町小泊沖, 234 mm TL, 2004.10.22; 深浦町沖, 160 mm TL, 2006.8.30 (青森県水産試験場, 2004a; 2006).

カワスズメ科 Cichlidae

10. ナイルティラピア *Oreochromis niloticus*

青森県外来種対策学術調査検討会(2006)による青森県外来種リストに定着外来種として本種が掲載された. その後, 国土交通省による河川水辺の国勢調査の中で2008年に小川原湖に流れこむ土場川から採集されている(国土交通省, 2013). また, 青森市内の沖館川水系の温排水の影響がある場所でも採集されている(佐原雄二氏私信).

高瀬川水系土場川河口, 23–230 mm SL, 47個体, タモ網・地曳網, 2008.8.17–2008.10.12 (国土交通省, 2013).

カジカ科 Cottidae

11. キリンアナハゼ *Pseudoblennius* sp.

中坊・甲斐(2013a)によれば陸奥湾から本種の採集記録がある.

トクビレ科 Agonidae

12. タテトクビレ *Aspidophoroides monopterygius*

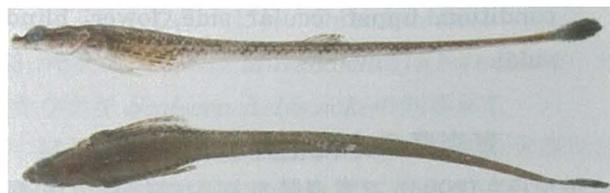


図1 タテトクビレ *Aspidophoroides monopterygius*, ca. 160 mm SL, off Hachinohe, Aomori (fresh condition).

八戸市沖, ca. 160 mm SL, 水深 245 m, 試験船青鵬丸
オッタートロール, 2013.6.1 (図 1).

ゲンゲ科 Zoarcidae

13. キタガワヘビゲンゲ *Lycenchelys tohokuensis*
HUMZ 152369 (260 mm SL), 青森県沖太平洋
(40°42.4'N, 142°09.1'E-40°41.0'N, 142°09.9'E), 水深
661-667 m, 1997.10.22 (Anderson and Imamura,
2002).

カレイ目 Pleuronectiformes

カレイ科 Pleuronectidae

14. シムムシュガレイ *Pleuronectes bilineatus*
深浦町岩崎沖, 159.6-170.0 mm SL, 2 個体, 底建網
2014.2.9 (図 2).

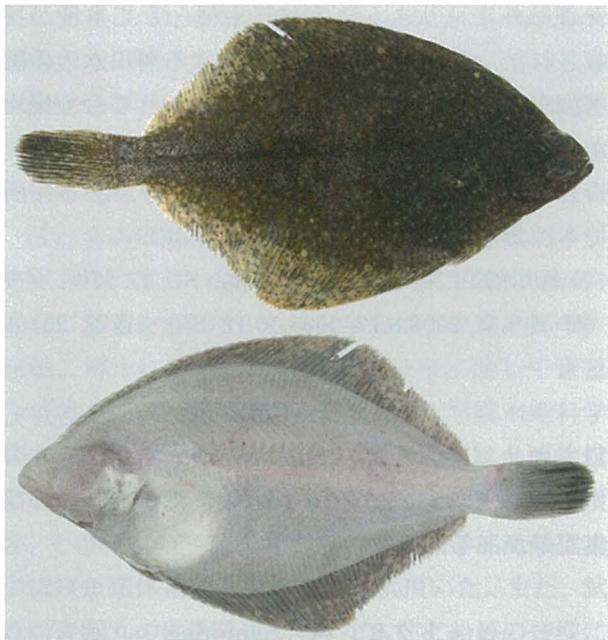


図 2 シムムシュガレイ *Pleuronectes bilineatus*,
170.0 mm SL, off Fukaura, Aomori (fresh
condition, upper: ocular side, lower: blind
side).

青森県日本海沿岸初記録種

塩垣ほか(2004)で青森県の太平洋岸からの記録
のみが報告されている種のうちで, 本研究で青森県
における分布記録を新たに精査したところ日本海
沿岸からも採集されていた種が 7 種確認されたの

で以下に列記した.

ネズミザメ目 Lamniformes

ネズミザメ科 Lamnidae

1. アオザメ *Isurus oxyrinchus*
深浦町北金ヶ沢, 280 cm TL, 定置網, 2005.6.9 (青森県
水産試験場, 2005).

ガンギエイ目 Rajiformes

ガンギエイ科 Rajidae

2. ガンギエイ *Dipturus kwangtungensis*
つがる市木造出来島沖, ca. 300 mm TL, 水深 125 m,
試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.7.11 (図 3).



図 3 ガンギエイ *Dipturus kwangtungensis*, ca.
300 mm TL, off Tsugaru, Aomori (fresh
condition).

アンコウ目 Lophiiformes

アンコウ科 Lophiidae

3. アンコウ *Lophiomus setigerus*
NSMT-P 74280, 深浦町沖, 採集日時不明 (Shinohara
et al., 2011).

アカグツ科 Ogocephalidae

4. アカグツ *Halieutaea stellata*
深浦町岩崎沖, 91 mm TL, 水深 70 m, 刺し網,
2007.7.11 (青森県水産試験場, 2007a).

ダツ目 Beloniformes

ダツ科 Belonidae

5. テンジクダツ *Tylosurus acus melanotus*

むつ市大畑沖, ca. 1 m TL, 定置網, 2004.9.28 (青森県水産試験場, 2004b).

スズキ目 Perciformes

メバル科 Sebastidae

6. ヌメカサゴ *Helicolenus hilgendorffii*

つがる市高山沖, ca. 130 mm SL, 水深 193 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.5.16 (図 4); 五所川原市十三沖, 145 mm SL, 水深 194 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.10.8.

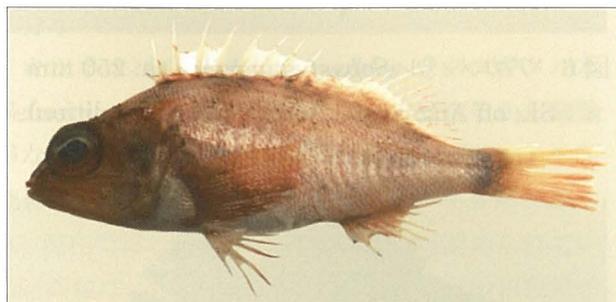


図 4 ヌメカサゴ *Helicolenus hilgendorffii*, ca. 130 mm SL, off Tsugaru, Aomori. (fresh condition).

ニザダイ科 Acanthuridae

7. ニザダイ *Prionurus scalprum*

深浦町岩崎沖, 410 mm TL, 水深 20m, 刺し網, 2007年 10月 (青森県水産試験場, 2007b).

分類学的付記

改訂青森県産魚類目録 (塩垣ほか, 2004) でも記録があったが, 当時は未同定種でその後に学名が確定したものや, 学名を変更すべきもの, 青森県内の分布情報に関し再確認を要することが明らかになったものがあるので, 特に重要な知見を以下に列記した.

ヤツメウナギ目 Petromyzontiformes

ヤツメウナギ科 Petromyzontidae

1. スナヤツメ *Lethenteron reissneri* をスナヤツメ北方種 *Lethenteron* sp. N に変更

近年の研究により従来のスナヤツメには形態的には識別困難なものの遺伝的に大きく分化した未同定種が 2 種含まれていることが明らかになった (例えば, 山崎, 2005). これら 2 種の分布は南北に偏ることから, スナヤツメ北方種 *Lethenteron* sp. N と南方種 *Lethenteron* sp. S の呼称が与えられている. これまでの研究によれば本県にはスナヤツメ北方種が分布し, 本県のレッドデータリストにも掲載されている (山崎, 2005; 青森県レッドリスト改訂検討会, 2010).

チョウザメ目 Acipenseriformes

チョウザメ科 Acipenseridae

2. チョウザメ属の 1 種 *Acipenser* sp. をチョウザメ *Acipenser medirostris* と同定

改訂青森県産魚類目録 (塩垣ほか, 2004) で脇野沢から報告されていたチョウザメ属の 1 種はチョウザメ *Acipenser medirostris* に同定されることが明らかとなった.

HUMZ 103660 (ca. 120 cm TL), むつ市脇野沢, 定置網, 1983年 10月 (図 5).



図 5 チョウザメ *Acipenser medirostris*, HUMZ 103660, ca. 120 cm TL, off Mutsu, Aomori (preserved in formalin).

ウナギ目 Anguilliformes

ウミヘビ科 Ophichthidae

3. キタノウミヘビ *Muraenichthys borealis* はミサキウナギ *Scolecenchelys aoki* の新参異名

Machida and Shiogaki (1990) により青森県産の標本をもとに新種記載されたキタノウミヘビ *Muraenichthys borealis* はミサキウナギ *Scolecenchelys aoki* の新参異名であることが明らかにされた (Hibino et al., 2012).

ダツ目 Beloniformes

メダカ科 Adrianichthyidae

4. メダカ *Oryzias latipes* をキタノメダカ *Oryzias sakaizumii* に変更

Asai et al. (2012) はこれまで“メダカ”に認められてきた遺伝的に大きく異なる 2 集団（北日本集団・南日本集団）のうち、青森県から福井県にかけての日本海側に分布する北日本集団を新種 *Oryzias sakaizumii* として記載し、瀬能(2013) はその標準和名をキタノメダカとした。佐原(2003) が示した青森県産の“メダカ”の写真 (fig.II.3.2) は背鰭の欠刻が浅い、体側後方の黒色素胞が濃い網目模様を形成するなどの特徴がありキタノメダカの特徴と一致する [vs. ミナメダカ *Oryzias latipes* (=“メダカ”南日本集団) ではそれぞれ深い、網目模様を形成しない]。また、瀬能(2013) は東北地方におけるミナメダカの分布域を岩手県盛岡以南の太平洋側としており、本県にミナメダカは自然分布しないと考えられる。しかし、ヒメダカのような改良品種が県内にも多数流通しており、これらが在来メダカの生息する水域に導入された時には容易に交雑し、深刻な遺伝子汚染が引き起こされることが予期される (小山・北川, 2009; 小山ほか, 2011)。継続的なモニタリングを要する。

スズキ目 Scorpaeniformes

メバル科 Sebastidae

5. メバル *Sebastes inermis* をアカメバル *Sebastes inermis*, シロメバル *Sebastes cheni* およびクロメバル *Sebastes ventricosus* に分類

Kai and Nakabo (2008) により、従来“メバル”と呼ばれてきた種は 3 種（アカメバル *Sebastes inermis*, シロメバル *Sebastes cheni* およびクロメバル *Sebastes ventricosus*）に識別されることが示された。アカメバルは胸鰭軟条数が通常 15 で体が赤色からオレンジ色を帯びる、シロメバルは胸鰭軟条数が通常 17 で体背面が茶色からこげ茶色を帯びる、クロメバルは胸鰭軟条数が通常 16 で体背面が黒色で腹面が銀色であることで 3 種は互いに識別される (中坊・甲斐, 2013b)。塩垣ほか(2004) は本県において“メバル”は日本海から太平洋にかけ

ての沿岸域に分布するとしている。しかし、過去の青森県産の魚類相に関する研究からは上述の 3 種がいずれの地域に分布するのかわ不明である。本研究ではアカメバルを鱒ヶ沢町と外ヶ浜町平館沖、シロメバルを青森市浅虫沖、クロメバルを鱒ヶ沢町、外ヶ浜町平館および青森市浅虫沖から確認した。

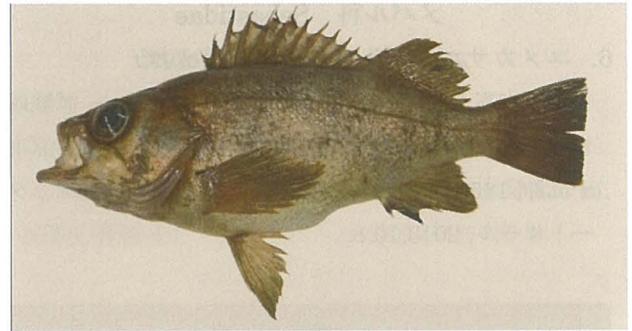


図 6 アカメバル *Sebastes inermis*, ca. 250 mm SL, off Ajigasawa, Aomori (fresh condition).



図 7 シロメバル *Sebastes cheni*, ca. 240 mm SL, off Asamushi, Aomori (fresh condition).



図 8 クロメバル *Sebastes ventricosus*, ca. 200 mm SL, off Ajigasawa, Aomori (fresh condition).

アカメバル *Sebastes inermis* : 外ヶ浜町平館沖, 119.5–125.4 mm SL, 3 個体, 底建網, 採集年不明 11 月 27 日; 鱒ヶ沢町沖, ca. 250 mm SL, 刺し網, 2013.7.15 (図 6).

シロメバル *Sebastes cheni* : 青森市浅虫沖, ca. 240 mm SL, 水深 20 m, かご網, 2013.7.4 (図 7).

クロメバル *Sebastes ventricosus* : 外ヶ浜町平館沖, 72.6–122.3 mm SL, 6 個体, 採集年不明 11 月 20–27 日; 青森市浅虫沖, ca. 250 mm SL, 水深 20 m, かご網, 2013.7.4; 鱒ヶ沢町沖, ca. 200 mm SL, 刺し網, 2013.7.15 (図 8).

6. キツネメバル *Sebastes vulpes* をキツネメバル *Sebastes vulpes* とタヌキメバル *Sebastes zonatus* に分類

キツネメバル *Sebastes vulpes* とタヌキメバル *Sebastes zonatus* の異同に関しては古くから議論がなされてきた。近年では Muto et al. (2011) の研究により両名義種は別種であるという見解が示され, 現在では一般的に両種の有効性が認められている。両種は, キツネメバルでは尾鰭後縁の白色帯の幅が狭く, 体の暗色横帯が不明瞭であるのに対し, タヌキメバルではそれぞれ広く, 明瞭であることで識別される (中坊・甲斐, 2013b)。塩垣ほか(2004)ではタヌキメバルをキツネメバルの幼魚型であるとし両者を同一種として扱っているため本県における両種の分布は不明である。一方, Muto et al. (2013) は日本海側の北海道小樽および石川県能登, 太平洋側の岩手県宮古に両種とその交雑個体が分布していることを示している。この研究を考慮すると, 本県には両種が日本海から太平洋にかけて広く分布していると考えられるが, その分布に関しては検討が必要である。

7. アカブチムラソイ *Sebastes pachycephalus chalcogrammus* はオウゴンムラソイ *Sebastes nudus* の新参異名

これまでムラソイ種群に関して, ムラソイ *Sebastes pachycephalus* に 4 亜種, すなわちムラソイ *Sebastes pachycephalus pachycephalus*, ホシナシムラソイ *Sebastes pachycephalus nigri-*

cans, オウゴンムラソイ *Sebastes pachycephalus nudus* およびアカブチムラソイ *Sebastes pachycephalus chalcogrammus* を認める分類体系や, これら 4 亜種の差異をそれぞれ種内の変異とみなしムラソイ *Sebastes pachycephalus* の 1 種のみを認める分類体系が提示され, これらの妥当性が議論されてきた。Kai and Nakabo (2013) はこれらムラソイ種群を分類学的に再検討し, ムラソイ *Sebastes pachycephalus* とオウゴンムラソイ *Sebastes nudus* の 2 種の有効性を認め, ホシナシムラソイ *Sebastes nigricans* はムラソイ *Sebastes pachycephalus* の, アカブチムラソイ *Sebastes chalcogrammus* はオウゴンムラソイ *Sebastes nudus* の新参異名であるとした。すなわち, 塩垣ほか(2004)の情報を考慮すれば, オウゴンムラソイは青森県内全域に広く分布することとなる。

カジカ科 Cottidae

8. キンカジカ *Cottiusculus schmidti* をキンカジカ *Cottiusculus schmidti* とニホンキンカジカ *Cottiusculus nihonkaiensis* に分類

Kai and Nakabo (2009) によりニホンキンカジカ *Cottiusculus nihonkaiensis* が新種記載された。ニホンキンカジカはキンカジカ *Cottiusculus schmidti* に酷似するが, 鼻棘が通常単尖頭である, 側線孔の前上方にいくつか皮弁があることで識別される (vs. キンカジカではそれぞれ 2 叉する, 皮弁がない)。塩垣ほか(2004) は本県における“キンカジカ *Cottiusculus schmidti*”の採集地点を日本海・太平洋底曳としているが, これには互いに酷似する上述の 2 種が含まれている可能性が高い。また, 中坊・甲斐(2013a)によればキンカジカは宮城県から福島県の太平洋沿岸に分布するのに対し, ニホンキンカジカは北海道および新潟から九州北部にかけての日本海沿岸に分布するとしており, 両種の分布域の中間に位置する本県沿岸には両種が出現する可能性が高いことを裏付ける。本研究において三沢市塩釜沖, むつ市大畑沖およびつがる市高山沖からキンカジカを, 佐井村沖と五所川原市十三沖からニホンキンカジカを確認したが, さらなる情報の蓄積を要する。

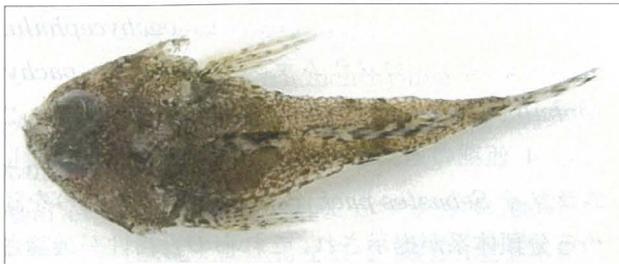


図9 キンカジカ *Cottiusculus schmidtii*, 58.4 mm SL, off Misawa, Aomori (fresh condition).



図10 ニホンキンカジカ *Cottiusculus nihonkaiensis*, 75.0 mm SL, off Sai, Aomori (fresh condition).

キンカジカ *Cottiusculus schmidtii*: つがる市高山沖, 57.0 mm SL, 水深 100 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.7.1; むつ市大畑沖, 59.0–62.3 mm SL, 4 個体, 水深 205 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.9.26; 三沢市塩釜沖, 58.4 mm SL, 水深 148 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.11.6 (図 9).

ニホンキンカジカ *Cottiusculus nihonkaiensis*: 佐井村沖, 75.0 mm SL, 水深 158 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.9.26 (図 10); 五所川原市十三沖, 53.5–62.3 mm SL, 2 個体, 水深 194 m, 試験船青鵬丸オッタートロール, 2013.10.8.

タウエガジ科 Stichaeidae

9. ムシャギンボ属の1種 *Alectrias* sp.をヒナムシャギンボ *Alectrias markevichi*に変更

Sheiko (2012) はピーター大帝湾産の標本に基づいてムシャギンボ属の *Alectrias markevichi* を新種として記載し, 青森県にも本種が分布することを示した. その後, 山中・矢部(2012) により本種に対し新標準和名ヒナムシャギンボが与えられた. 本種は塩垣ほか(2004) でムシャギンボ属の一種 *Alectrias* sp.とされたものと同種であり, 下記の標

本がその証拠となる標本である.

NSMT-P 60935 (20.8 mm SL), 深浦町横磯, 1981.8.14; NSMT-P 60936 (23.8 mm SL), 鯨ヶ沢町赤石, 1981.9.20; NSMT-P 60937 (24.6 mm SL), 鯨ヶ沢町赤石, 1981.10.20; NSMT-P 60938–60939 (40.4–43.6 mm SL), 外ヶ浜町竜飛, 1982.9.19; NSMT-P 60940–60944 (23.7–55.0 mm SL), 平内町茂浦, 1998.7.29.

カレイ目 Pleuronectiformes

カレイ科 Pleuronectidae

10. ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys* sp.をナガレメイタガレイ *Pleuronichthys japonicus*に変更

Suzuki et al. (2009) によりメイタガレイ類似種の分類学的検討がなされ, ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys japonicus* が新種として記載された. 本種は塩垣ほか(2004) の中で未同定種ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys* sp.として掲載されていた.

フグ目 Tetraodontiformes

マンボウ科 Molidae

11. マンボウ *Mola mola*をマンボウ *Mola* sp. Bに変更

従来“マンボウ *Mola mola*”と呼ばれていた種には学名未確定の2種, マンボウ *Mola* sp. Bとウシマンボウ *Mola* sp. Aが含まれていることが近年の研究で明らかとなっている (Yoshita et al., 2009; 山野上ほか, 2010). 両種はマンボウでは2 m以上の大型個体で舵鰭の後縁が波型であるのに対し, ウシマンボウでは大型個体でも波型にならず円いことで識別される (波戸岡・萩原, 2013). 塩垣ほか(2004) は, 本県における“マンボウ *Mola mola*”の採集地点として深浦, 木造, 浅虫, 牛滝および太平洋沿岸を挙げている. しかし, これら“マンボウ”がマンボウ *Mola* sp. Bであるのかウシマンボウ *Mola* sp. Aであるのか不明である. 現在, 本県におけるマンボウ類の確実な同定を伴う分布情報は Yoshita et al. (2009) が青森県の大間崎にマンボウが分布することを示しているのみである. 一方, ウシマンボウも岩手県に分布することを考慮すると, 本県の太平洋岸には両種が含まれている可能性が高い. 本

県におけるマンボウ属魚類の分布には再検討の余地がある。

引用文献

- Anderson, M. E. and H. Imamura. 2002. A new species of *Lycenchelys* (Perciformes: Zoarcidae) from the Pacific coast of northern Japan. *Ichthyol. Res.*, 49:355-357.
- 青森県水産試験場. 2004a. シキシマハナダイ. 漁海況情報ウオダス, 1375号.
- 青森県水産試験場. 2004b. テンジクダツ. 漁海況情報ウオダス, 1370号.
- 青森県水産試験場. 2005. アオザメ. 漁海況情報ウオダス, 1418号.
- 青森県水産試験場. 2006. シキシマハナダイ. 漁海況情報ウオダス, 1508号.
- 青森県水産試験場. 2007a. アカグツ. 漁海況情報ウオダス, 1575号.
- 青森県水産試験場. 2007b. ニザダイ. 漁海況情報ウオダス, 1587号.
- 青森県外来種対策学術調査検討会. 2006. 青森県外来種対策学術調査報告書—青森県外来種リスト—. 青森県, 94 pp.+ 2 Figs.
- 青森県レッドリスト改訂検討会. 2010. 青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック (2010年改訂版)—. 青森県, 335 pp. + 12 Figs.
- Asai, T., H. Senou and K. Hosoya. 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei: Adrianichthyidae). *Ichthyol. Explor. Freshwaters*, 22:289-299.
- 遠藤広光・北川大二. 2006. 北西太平洋に出現したタラ目メルルーサ科のシロガネダラ (新称) *Merluccius productus* (Ayres, 1855). *魚類学雑誌*, 53: 95-99.
- 原子 保. 2002. 青森県におけるサケ科魚類相. 青森県水産試験場研究報告, (2): 23-30.
- 波戸岡清峰・萩原清司. 2013. マンボウ科 Molidae. 中坊徹次(編), pp. 1746-1747, 2242-2243. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 東京.
- Hibino, Y., S. Kimura, K. Hoshino, K. Hatooka and J. E. McCosker. 2012. Validity of *Scolecenchelys aoki*, with a redescription of *Scolecenchelys gymnota* (Anguilliformes: Ophichthidae). *Ichthyol. Res.*, 59:179-188.
- Kai, Y. and T. Nakabo. 2008. Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Ichthyol. Res.*, 55:238-259.
- Kai, Y. and T. Nakabo. 2009. Taxonomic review of the genus *Cottiusculus* (Cottoidei: Cottidae) with description of a new species from the Sea of Japan. *Ichthyol. Res.*, 56:213-226.
- Kai, Y. and T. Nakabo. 2013. Taxonomic review of the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Zootaxa*, 3637:541-560.
- 国土交通省. 2013. 河川環境データベース河川水辺の国勢調査. 国土交通省ホームページ: <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/index.html>. (参照: 2013.11.25)
- Machida, Y. and M. Shiogaki. 1990. A new snake eel, *Muraenichthys borealis*, from Aomori, northern Japan. *Jap. J. Ichthyol.*, 37:1-5.
- 松浦啓一・新井良一・塩垣 優・藍沢正宏. 1988. 下北半島の魚類. 国立科学博物館専報, (21): 163-178 + pls. 9-10.
- Muto, N., Y. Kai and T. Nakabo. 2011. Genetic and morphological differences between *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Fishery Bull.*, 109:429-439.
- Muto, N., Y. Kai, T. Noda and T. Nakabo. 2013. Extensive hybridization and associated geographic trends between two rockfishes *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes: Sebastidae). *J. Evol. Biol.*, 26:1750-1762.
- 野村義勝・塩垣 優. 1992. 下北半島牛滝産魚類目録補訂—I. 青森県水産増殖センター研究報告, (7): 1-7.
- Nakabo, T. (ed). 2002. Fishes of Japan with pictorial keys to the species, English edition. Tokai University press, Tokyo, lxi+1749 pp.
- 中坊徹次(編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013a. カジカ科 Cottidae. 中坊徹次(編), pp.1160-1188, 2061-2067. 日本産魚類検

- 索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013b. メバル科(新称) *Sebastidae*. 中坊徹次(編), pp.668-681, 1933-1938. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 東京.
- 小山直人・北川忠生. 2009. 奈良県大和川水系のメダカ集団から確認されたヒメダカ由来のミトコンドリアDNA. 魚類学雑誌, 56 : 153-157.
- 小山直人・森 幹大・中井宏施・北川忠生. 2011. 市販されているメダカのミトコンドリアDNA 遺伝子構成. 魚類学雑誌, 58 : 81-86.
- 佐原雄二. 2003. 第II章第3節1 海産魚. 青森県史編さん自然部会(編), pp. 289-295. 青森県史 自然編生物. 青森県. 804 pp.
- 瀬能 宏. 2013. メダカ科 *Adrianichthyidae*. 中坊徹次(編), pp.649-650, 1923-1927. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 東京.
- Sheiko, B. A. 2012. *Alectrias markevichi* sp. nov. — a new species of cockscombs (Perciformes: Stichaeidae: Alectriinae) from the sublittoral of the Sea of Japan and adjacent waters. *Voprosy Ikhtiologii*, 52:295-308.
- 清水孝昭・高木基裕. 2010. 愛媛県に侵入したカラドジョウ集団内に見られた起源の異なる2つの遺伝子系統. 魚類学雑誌, 57 : 125-134.
- Shinohara, G., S. M. Shirai, M. V. Nazarkin and M. Yabe. 2011. Preliminary list of the deep-sea fishes of the Sea of Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A*, 37:35-62.
- 塩垣 優. 1982. 青森県産魚類目録. 青森県水産試験場報告, i + 36 pp.
- 塩垣 優・石戸芳男・野村義勝・杉本 匡. 2004. 改訂青森県産魚類目録. 青森県水産総合研究センター研究報告, (4) : 39-80.
- 塩垣 優・野村義勝・杉本 匡. 1992. 青森県産魚類目録補訂—I. 青森県水産増殖センター研究報告, (7) : 17-31.
- Suzuki, S., T. Kawashima, T. Nakabo. 2009. Taxonomic review of East Asian *Pleuronichthys* (Pleuronectiformes: Pleuronectidae), with description of a new species. *Ichthyol. Res.* 56:276-291.
- 竹内 基・松宮隆志・佐原雄二・小川 隆・太田 隆. 1985. 青森県の淡水魚類相について. *淡水魚*, (11) : 117-133.
- 田城文人・今村 央・矢部 衛. 2010. 日本での分布が再確認されたホラアナゴ科魚類ユキホラアナゴ(新称) *Ilyophis nigeli*. 魚類学雑誌, 57 : 167-172.
- 鶴岡 理・今村 央・矢部 衛. 2010. キチジ科アラスカキチジの本州北部沖太平洋からの記録. 北海道大学水産科学研究彙報, 60 : 19-21.
- 山中智之・矢部 衛. 2012. *Alectrias markevichi* Sheiko, 2012 に対する新標準和名「ヒナムシャギンボ」の提唱. 魚類学雑誌, 59 : 175-176.
- 山野上祐介・馬淵浩司・澤井悦郎・坂井陽一・橋本博明・西田 睦. 2010. マルチプレックスPCR法を用いた日本産マンボウ属2種のミトコンドリアDNAの簡易識別法. 魚類学雑誌, 57 : 27-34.
- 山崎裕治. 2005. ヤツメウナギの系統と種分化. 月刊海洋号外, 41 : 184-190.
- Yoshita, T., Y. Yamanoue, K. Sagara, M. Nishibori, H. Kuniyoshi, T. Umino, Y. Sakai, H. Hashimoto, K. Gushima. 2009. Phylogenetic relationship of two *Mola* sunfishes (Tetraodontiformes: Molidae) occurring around the coast of Japan, with notes on their geographical distribution and morphological characters. *Ichthyol. Res.* 56:232-244.